ホープジャパンニュース 2015年 新春
No.71
PHJ ピープルズ・ホープ・ジャパン

カンボジア―新事業地での活動開始

仏教の僧侶による新事務所のお浄め

カンボジアでの事務所開設以来10年間活動してきたコンポントム州での活動を終え、2014年9月よりコンポンチャム州へ事業地を移転しました。これに伴い、事務所も移転し、9月に事務所開所式を行いました。

コンポンチャム州は首都プノンペンから北東へ車で3時間程の場所に位置する州です。母子保健環境に関しては、州人口に対する助産師の数が十分ではなく、また現場で指導できる人材がいないことが課題です。また、支援対象のストゥントロン保健行政区（＊）はコンポンチャム州再編に伴い、今年新設された保健行政区です。そのため、保健行政区から地域の保健機関への指導体制がまだ確立しておらず、支援を必要としています。

そこでPHJは、これまでのコンポントム州での経験を生かしながら、以下の4つの柱を中心にコンポンチャム州でも母子保健支援を実施します。

1. 保健行政区能力強化
2. 助産師育成
3. 保健センター運営能力強化
4. 村人の意識向上活動

活動の第一段階として、保健行政区や村の現状を詳しく知るべく、事前調査を実施しました。調査期間中は雨季で、4WD車でさえ走行が大変な悪路の中、保健行政区や村での調査を実施しました。村では2歳以下の子を持つ母親に対して保健センターの利用状況や出産に関してインタビューを行いました。その結果、多くの女性が保健センターで妊婦検診を受けているものの、保健センターで出産した女性は51%に留まり、費用の高い私立の診療所で出産した女性は25%と比較的多いことが分かりました。保健センターや私立の診療所での出産が多い一方で、伝統的産婆による自宅出産も17%ありました。また産後検診については、多くの女性が重要であると考えているものの、保健センターでの産後検診について知っている女性は25%と少なく、実際に産後検診を受けた女性は6%と非常に少ないようでした。今回の調査結果に基づき、事業の詳細を詰める予定です。

N連調印式で隈丸大使と

また、10月には外務省から新事業地での母子保健支援に対する助成金（日本NGO連携無償資金協力）を受けることが決まり、プノンペンの日本大使館で署名式典が開催されました。日本大使館側からは、隈丸優次大使の他、草の根事業担当者等が参加されました。PHJ側からは、PHJスタッフの他、コンポンチャム州保健局、コンポンチャム州病院、ストゥントロン保健行政区、保健センターからの参加者を含む総勢18名が参加しました。また、多くのマスコミ関係者も集まり、署名式典の様子は新聞、テレビ、インターネットと広くメディアに取り上げられました。

夏より開始していた新スタッフ採用活動についても11月に全スタッフが揃い、いよいよ本格的に事業が始まろうとしています。コンポンチャム州でも母子保健環境の改善に貢献できるようスタッフ一丸となって取り組んでいく所存です。

カンボジア事務所所長　市原　和子

（＊）…カンボジアの保健行政区画は、州、保健行政区、保健センターに分かれています。

スタッフ全員

インドネシア―セラン県への事務所移転と衛生環境改善活動

PHJ インドネシア事務所は昨年 10 月にジャカルタからセラン県に移転しました。現事務所は、ジャカルタから車で西に 2 時間程の距離にある地方都市の中でも比較的大きな町にあります。小さい商店街の集まるマーケットが点在、ショッピングセンターも 1 か所あります。

私は昨年 10 月中旬に所長として赴任し、プロジェクト進捗状況の確認、実施開始予定のプロジェクトの基盤作りを始めました。PHJ 事務所は助産師 3 人、ドライバー 1 人に所長という 5 人体制で、事務所から片道 1 ～ 1.5 時間ほどの距離にあるティルタヤサ自治区の 13 村を回り、日々の活動を進めております。

この自治区では村人に衛生理念が理解浸透されておらず、村の至る所にゴミが投棄され、生活用水である川の水が清潔・不潔の区別なく利用されている状況です。衛生環境の改善推進は、地域の保健医療の中心である自治区診療所からも取り組みたい問題として挙げられています。

事務所前でスタッフと

その中でも特に改善が必要とされているのがスジュン村で、自治区診療所の衛生環境担当者及びスジュン村の助産師とミーティングを通じ、医療スタッフ視点の現状把握・問題点の確認を行いました。更に事務所スタッフと共にスジュン村へ出向き、衛生改善事業の立ち上げ開始の為に、現地の視察及び実態調査を行いました。当事務所のスタッフ全員で視察や直接聞き取り調査や実態調査を行う事で、問題点の発見・確認を行うと共に、これから行う衛生環境改善事業の必要性を認識してもらえる良い機会となり貴重な体験となったようです。

活動実施計画を決めるワークショップ

その後調査で得た情報を基に、東京事務所スタッフの協力で開催したワークショップを通じ、今年度事業全体の内容の理解・問題点の抽出・活動実施計画の見直しを行いました。今期はこれを基にして、計画の実施を進めて行き、ティルタヤサ自治区の母子健康改善の推進を目指します。今後も新所長としてスタッフと共に成長しながら進んで参りたいと思っております。

インドネシア事務所所長　柳瀬　美子

タイ―障がい児・慢性疾患児の支援

タイ北部における貧困世帯の障がい児や慢性疾患児を支援する事業は 1998 年にスタートし、累計で 228 名の子供たちを支援してきました。これらの子供たちの多くは定期的な治療が必要であるにもかかわらず、経済的に困窮しているため治療が受けられない状況でした。その結果、症状は一層悪化し、家族がつきっきりで世話をしなければならず、外で働くことが出来ないため、生活は一層苦しくなるという悪循環に陥っていました。加えて、治療が受けられないことで病気や対処法についての正しい知識が得られず社会から孤立していました。

ラジャナガリン子供発達センターでのリハビリプログラム

数年前にタイ政府による保険制度が整備されたことにより、ぜんそくや糖尿病などの治療費は保険が適用され、治療費を負担する必要がなく、症状が改善した患者は当事業を卒業しました。

現在、当事業のドナー 52 名からの支援で 22 名の患者が治療を受けています。脳性麻痺や筋萎縮症などの症状が重く保険適用外の長期的な治療とリハビリが必要な患者。またミャンマーからの移民などタイ国籍を持たず高額な治療費を自己負担しなければならない患者ばかりです。

当事業においては、治療費や医療機関への交通費などを支援して治療を受けられるようにするだけでなく、患者本人やその家族に健康についての正しい知識を提供するための健康教育を定期的に行っています。病気の予防や自宅で出来るケア、子供の成長に必要な栄養等その内容は多岐にわたります。これらの活動によって症状が改善され、最終的には生活の質の向上につながることを目標としています。

近年では、上記の治療費の支援や健康教育に加えて、近隣の医療機関と連携を取り、理学療法士、作業療法士、小児科医や看護師など医療チームを構成し、患者の自宅や学校を個別に訪問し、患者の健康状態にあわせたリハビリプログラムを行い、家族にその方法を伝え、毎日自宅でプログラムを行えるようにしています。

自宅で理学療法を受ける子供

このように、よりきめ細かい支援を行うことによって、患者の症状は少しずつ改善し、生活の質は飛躍的に向上していると考えています。今後も現地医療機関と緊密に連携を取り、ひとりひとりにあった支援を続けてまいります。

タイ事務所所長　ジラナン・モンコンディー

五月女理事 コラム Vol.11　ASEAN諸国の対日観／アジアの人々の目に映る日本の姿

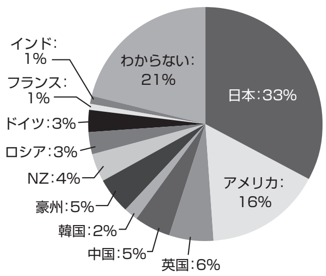
日本にとり政治的・経済的に重要な地域であるインドネシア、タイ、ヴェトナムなどアセアン諸国において、日本政府および NGO、青年海外協力隊などの国際貢献活動を、アジアの人々はどのように評価しているのでしょうか。

最近行われたアセアン地域における各国好感度の世論調査の結果を基に述べてみましょう（2014 年 3 月調査）。

世界で最も信頼できる国はどこか、の問いに対し、1 位、日本（33%）、2 位、米国（16%）、3 位、英国（6 %）、4 位、豪州と中国（5%）、6 位、NZ（4 %）、以下ロシア、ドイツ、韓国、フランス等となっており、また日本のアジアへの国際貢献については、92%の人々が高く評価しています。またアセアンではありませんが、台湾では好きな国で 1 位が日本（52%）、次いで米国（8 %）、3 位がスイス（4%）でした。香港でも 1 位が日本、以下シンガポール、台湾、豪州の順でした。

日本は最も信頼できる国

Q. 次の国のうち、最も信頼できる国はどの国ですか。（日本、米国、ロシア、中国、韓国、豪州、インド、英国、フランス、ドイツ、NZより1つ選択）



調査対象国別に見ると、フィリピン以外の6カ国が日本を最も信頼できる国と評価。
（フィリピンにおいては、米41%、日本31%。）

資料：外務省報道発表　平成26年4月18日
（ASEAN7か国における対日世論調査結果）

では、いったい日本のどこに魅力を感じているのでしょうか。「技術的に進んだ国」「経済的に進んだ国」「自然の美しい国」「平和で安全な国」等を挙げています。

アジア諸国に限らず欧米諸国での調査でも対日好感度は高いのです。英国 BBC 放送の調査では、ドイツ、カナダ、英国に次いで日本は 4 位、米国 PR 調査機関では、カナダ、英国に次いで日本は 3 位でした（米国人にとりカナダ・英国は親戚国家であり、真の外国としては日本が好感度第 1 位と云えましょう）。しかし、実は日本が最も好感度の高い国であることに気付いていない日本人が多い事に愕然とします。英国エコノミスト誌の報告によると、自国を信頼し尊敬する国民の比率が、豪州、カナダ、フィンランドなどは 90%、中、米、英、独などは 70 ～ 80%であるのに対し、日本人の自国評価は 56%と最下位でした。自国の素晴らしさに気付いていないのでしょう（調査対象 33 ヶ国）。

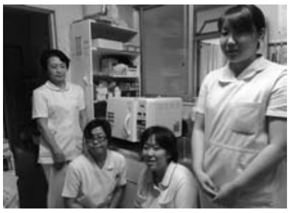
世界中で活動する NGO や企業の人々は日本人であることに自信と誇りを持って活躍していただきたいと願っています。

五月女光弘（さおとめみつひろ）
外務省初代 NGO 大使、元特命全権大使、元早稲田大・聖心女子大等兼任講師、文芸春秋ベストエッセイストの一人、著書多数、PHJ 理事等。

東日本大震災復興支援の現状

震災発生から３年９ヶ月が経ちました。PHJ が支援している宮城県気仙沼の湾岸一帯は漸く 4m のかさ上げ工事が本格的に始まりましたが仮設住宅から公営住宅への引越しはまだこれからです。また石巻は仮設住宅の高齢者への心のケアが大きな問題となっており、PHJ の医療支援はこれからも継続していきます。

気仙沼



寄贈機器を前に看護師さんたち

気仙沼市医師会と連携して被災した民間病院に医療機器や什器類を寄付しました。昨年 10 月には復興が遅れている猪苗代病院へ自動血球カウンタ、自動 CRP 測定装置他を寄付し、これまで細胞検査は外注に出していたものがこれら機器の導入により院内で検査が出来るようになったと喜んでいただきました。

石巻

訪問診療医による診察

石巻開成仮診療所は仮設住宅や高齢者の自宅を中心に訪問診療を続けており、昨年 4 月からは研修医を含めて訪問診療医は 5 名に増えましたので PHJ が寄贈したドクターカーはフル稼働です。PHJ は今後隣接する包括ケアセンターの活動を支援していく予定です。

多賀城

医療システムの
定期メンテナンス作業

PHJ は昨年 10 月、市内で唯一透析患者を受け入れている多賀城腎・泌尿器クリニックに身体組成分析装置や膀胱結石破砕装置システム他を寄贈しました。透析治療登録患者は約 200 名となりほぼ震災前の状態まで回復しました。今後 PHJ は医療機器の定期メンテナンス費用や不可欠な消耗品購入費用のサポートを続けていきます。

災害支援担当　横尾　勝

PHJひろば

「アジアのおはなしカレンダー」プロジェクトに参加して

社会福祉法人 おおぞら会 あすは Kids　土屋　哲

“あすは Kids” は武蔵野市八幡町にある、知的に障がいを持つ児童・生徒が子供同士や支援員と関わりながら過ごす放課後活動の場です。1 日定員 10 名、月曜日から土曜日まで、小学生から高校生の児童・生徒が参加しています。主な活動内容は、公園でボール遊びや散策、おやつ作り、工作、コンビニ等への買い物の他、季節に応じた活動（ひな祭り、スイカ割り、ハロウィン、クリスマス等）を行っています。また施設内だけで完結するのではなく、近隣のお祭りへの参加等、施設外での地域交流も大事にしています。

“あすは Kids” のモットーは「楽しく」。ここは学校でも塾でもありません。誰かに言われてやるのではなく、自ら「やってみたい」と思えるような環境作りや支援を工夫しています。活動を楽しみながら学校や家庭では得られない何かを子供達が経験し、今後充実した人生を送るための糧となれば…との思いを持って職員一同支援しています。

「アジアのおはなしカレンダー」のプロジェクト参加は今年で 5 年になります。幸いにも 5 回連続であすは Kids の子供達の作品がカレンダーに選ばれました。普段の活動の中だけでは、努力の成果がこうして形になることは殆どありません。製品化されることで、子供達の大きな自信に繋がっています。選ばれた生徒からは「今年は何を描くの？また描きたい」、選ばれなかった生徒からは「私もカレンダーの絵に選ばれたい」と言った声が聞かれました。職員から言われてやるのではなく、自ら「やってみたい」と言って貰えたのは、このようなチャンスを与えて頂いたからこそだと思います。

制作する絵に関しては、子供達の大胆な発想や構図、色使いを大切にしています。大人では思い浮かばない発想や色の使い方は職員も感心させられることが多くあります。“あすは Kids” の子供達の作品がカレンダー作品に選ばれているのはここが評価されているのではと思っています。

ピープルズ・ホープ・ジャパンの皆様には、子供達の「やってみたい」という気持ちを引き出して貰えるような取り組みや表現の場を提供して頂き、感謝の気持ちで一杯です。子供達も毎年楽しみにしていますので、今後も是非続けて頂ければと思います。

各種イベントの終了報告

1. 就活カフェ　第 1 回

日時：2014 年 9 月 17 日
18:45 ～ 20:45
場所：武蔵野プレイス
テーマ：研究員・コンサル・学生の転職・就職活動のストーリー

2. 就活カフェ　第 2 回

日時：2014 年 12 月 19 日
18:00 ～ 20:00
場所：JICA 地球ひろば
テーマ：企業経由で国際協力 NGO へ

3. 三鷹国際交流フェスティバル

日時：2014 年 9 月 21 日
10:00 ～ 16:00
場所：井の頭公園西園
展示内容：
- アジアのおはなしカレンダー
- アジアの楽器を楽しむ

4. グローバルフェスタ

日時：2014 年 10 月
4 日 10:00 ～ 17:00、
5 日 10:00 ～ 12:00
場所：日比谷公園
展示内容：
- アジアのおはなしカレンダー
- PHJ カンボジア・インドネシアでの母子保健改善活動
- PHJ タイでの HIV/AIDS 予防教育

5. むさしの国際交流まつり

日時：11 月 16 日
11:00 ～ 16:00
場所：武蔵境 スイングビル
展示内容：
- アジアのおはなしカレンダー
- PHJ カンボジア・インドネシアでの母子保健改善教育
- 多言語紙芝居：ほかの 2 団体と共同で紙芝居を見せインドネシア語での語りを担当

お知らせ　＊ホープジャパンニュースを郵送でなく、PDF でお受け取りになりたい方は **info@ph-japan.org** までお申し込みください。次号よりメールに添付してお送りいたします。

発行：ピープルズ・ホープ・ジャパン / 発行責任者：廣見 公正 / 編集人：矢﨑 祐子・南部 道子 / 発行日：2015 年 1 月 5 日
〒 180-8750 東京都武蔵野市中町 2-9-32　TEL：0422-52-5507　FAX：0422-52-7035　E-mail：info@ph-japan.org
ホームページ：http://www.ph-japan.org
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。